

テヌートの藤原慶太社 御による生産性の向上」

振興協会(JATAF)

これを受け、藤原社員

が主催する「令和2年度 民間部門農林水産研究開発功績者表彰」において、「CO₂&Air局所施用を主とした環境統合制

が確立できた「起業してのが、創業前から携わっから、リサーチ&デベロしてきた藻類培養事業。Ｃツプメントを忠実に繰り返り、脱炭素社会の構築に貢献できる。さらに林業企業の良さでもあるが、一つのことを最後までやり抜いた成果だと思う。ノキの培養・育種実験な

2011年3月1日の東日本大震災以来、脱原発の時代が本格的に始まり、再生可能エネルギーが改めて見直される中、藤原社長は、農業事業に着目。植物工場に関して技術開発、CO₂施用濃度、照度、pH、EC、2011年3月1日の光合成効率促進装置「CO₂の局所施用を確立」を行っている。「CO₂の局所施用を確立」を普及。さらにCO₂とAir²を空気に放出するのの施用を確立した。これではなく森林の中に効率よく撒けば、木の生長が活性化し、成木まで30年かかるものが20年とか10年で行けると藤原社長。

技術、光合成の仕組みを土中温度、土中湿度、風間欠制御もできる。1日 さらに林業事業をやる
 学び、それらに携わった力、気圧などの環境データ6条件（濃度や間欠方法）からには自らも廃プラ間

[illegible]